

自己評価報告書

平成23年5月18日現在

機関番号：54301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320016

研究課題名（和文）近代日本における知識人宗教運動の言説空間—『新仏教』の思想史・文化史的研究

研究課題名（英文）The Discursive Space of an Intellectual Religious Movement in Modern Japan: a Study of the "Shin Bukkyo" Journal from the viewpoint of the History of Culture and Thought

研究代表者

吉永 進一 (Yoshinaga Shin' ichi)

舞鶴工業高等専門学校・人文科学部門・准教授

研究者番号：90271600

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：新佛教、ユニテリアン、近代仏教、知識人宗教

1. 研究計画の概要

(1) 『新佛教』に寄稿する多くの仏教者の伝記的データを集約し、今後の研究の基礎資料とする。

(2) 各研究分担者ごとの個別のテーマの考究。これについては当初は以下のようなテーマでスタートした。『新佛教』運動史、古河老川と『新佛教』運動の生成、高島米峰と社会的ネットワーク、『新佛教』における信仰の位相、『新佛教』をめぐる明治のメディア、加藤咄堂と修養運動の系譜、新佛教と宗教教育、日本仏教の「普遍化」への模索。

2. 研究の進捗状況

2008年度以来、メーリングリストを活用した情報交換ならびに毎年2回の研究会を開催して伝記的データの蓄積に努めてきた。研究会では深澤英隆氏（知識人宗教）、坂本慎一氏（新佛教と友松円諦）、杉本良男氏（スリランカの近代仏教）から発表をいただいて、知識人宗教、メディア、国際化の視点からの議論を深めた。また、2008年から毎年、宗教学会にてパネルディスカッションを開き、すでに計4回のパネルを開催している。2008年度のパネル「『新佛教』の言説空間、その宗教史・文化史的意味」では、初期新佛教運動を中心に、それを取り巻く社会的、宗教的問題について議論した。2009年度の宗教学会では「明治仏教の国際化と変貌」「明治仏教史を上書きする」の二つのパネルを開き、国際化とメディアについての議論を展開した。さらに2010年度には「近代仏教／メディア／大学」と題して、前年度のパネルで提起された問題を集約したパネルを開いた。以上の議論の結果、(A) 教育機関、出版、講演説経を含めたメディアと『新佛教』の関係、

(B) 国際化する近代仏教における『新佛教』の位置という、従前の研究では十分光のあてられてこなかったテーマの重要性が明らかになった。これにより研究分担者は各自の研究内容を深めると同時に、本研究における各自の研究の位置づけを改めて再検討と確認することができた。それと同時に、高輪佛教学大学や宇津木二秀といった、近代仏教の国際化に関する重要な調査対象がプロジェクト開始後に発見され、本プロジェクトに納まりきらない問題を提起している。2010年には、高輪佛教学大学の国際的仏教運動についてアイルランドコーク大学の Brian Bocking 氏とも情報交換を行った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 上記(1)の伝記的資料については各分担者ごとに6名前後の『新佛教』同人の調査を行っている。正体不明の筆名が多いことが『新佛教』の特徴だが、これについては高橋が担当して調査中である。(2)各研究分担者ごとの個別テーマの考究については、すでに4回開催したパネルディスカッションの中で、それぞれがテーマを練り上げているので、報告書論文を執筆する段階にある。ただ、昨年度に発行予定であった中間報告書は予算の関係で見送ったが、その分については、今年度の最終報告書に盛り込んでいく。

4. 今後の研究の推進方策

本年度は最終報告書の執筆に向けて鋭意執筆を進めることが最大の課題であろう。これについては昨年度末の研究会で当初の執筆分担を多少修正し、最終決定してあり、以

下の内容を予定している。新佛教運動通史、高島米峰と丙午出版社、加藤咄堂と修養論、民俗学の起源としての『新佛教』、海外経験と仏教の新解釈、忽滑谷快天とイスラーム、高輪佛教大学とメディア、田中治六、そして『新佛教』登場人物名の整理である。

本年度開催の宗教学会において、『新佛教』の後期に焦点をあて、プロジェクト全体のまとめとなるパネル発表を予定している。

さらに静岡と東京で、それぞれ一回ずつの公開講演会の開催を予定しており、研究成果の一般への還元を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

(1) 吉永進一、ウィリアム・マクガヴァンと大乘協会、近代仏教 18号、127-145、2011年、査読無

(2) 吉永進一、大澤広嗣、中川未来、国際派仏教者、宇津木二秀とその時代、舞鶴工業高等専門学校紀要 46号、81-95、2011年、査読無

(3) 吉永進一、近代日本における神智学思想の歴史、宗教研究 365号、375-395、2010年、査読有

(4) 大谷栄一、一九三〇年代の伝統仏教・新興仏教・反宗教運動の交渉と葛藤、日本仏教総合研究第8号、2010年、53-71、査読有

[学会発表] (計5件)

(1) 吉永進一「近代仏教史における鈴木大拙」宗教哲学会第3回学術大会 2011年3月26日、京都大学

(2) 大谷栄一「帝国と仏教」、シンポジウム「近代日本の宗教—仏教を中心に」、日本思想史学会2010年度大会、2010年10月16日、岡山大学

(3) 吉永進一、大谷栄一、安藤礼二、岩田真美、パネルディスカッション「近代仏教／メディア／大学」日本宗教学会第69回学術大会、2010年9月4日、東洋大学

(4) 岡田正彦「啓蒙から修養へ—井上円了は仏教を哲学化したか—」日本宗教学会第69回学術大会、2010年9月4日、東洋大学

(5) 大谷栄一「近代仏教史研究の現状とその課題」、第18回日本近代仏教史研究会研究大会シンポジウム「問い直される近代仏教」、

2010年5月22日、國學院大學

[図書] (計4件)

(1) 大谷栄一「近代仏教の形成と展開」末木文美士編、佼成出版社、『新アジア仏教史 14 日本IV 近代国家と仏教』、2011年、61-103頁

(2) Tomoe Moriya ““Americanization” and “Tradition” in Issei and Nisei Buddhist Publications” in Duncan Ryūken Williams and Tomoe Moriya eds. *Issei Buddhism in the Americas* (University of Illinois Press, 2011) , pp. 110~134

(3) 岡田正彦『忘れられた仏教天文学—19世紀の日本における仏教世界像』ブイツーソリューション、2010年11月、306頁 (単著)

(4) 安藤礼二『場所と産霊 近代日本思想史』 2010年7月、講談社、290頁 (単著)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]